

イギリス留学の記

ロータリー財団奨学生 岡田 操

私はロータリー財団国際親善奨学生としてイギリスの工セツクス大学に平成十一年十月より一年間研究させていただきまし。今回

私にはイギリス東南部のコルチェスターという町にルチエスタという町にがある。工セツクス大学の大学院でポストコロニアル学を専攻することになりまし。この町は、イギリス最古の町といわれ、一世紀にノルマン人が最初に入植をした場所です。大学は町のはずれのウイヴェンホーパークという公園の丘の上にあります。この大学のあるイーストアングリアと呼ばれる地域は十九世紀の画家ジョン・コンスタブルが好んで描いた地域でもあります。工セツクス大学のあるウイヴェンホーパークも彼の描いた場所のひとつで、その頃の風景がそのまま残されています。

コースに留学したので基本的に自分で勉強することを求められます。授業は週に二日、先生を困らなりの論形式です。毎週かなりの量の文献を読まなければならず、これを怠ると、授業中みんなが何について話しているのか全く分らないです。文献を読みついでに自分の意見を持たなければなりません。その上にレポートを提出しなければならぬときなどには、寝る時間もないほどでした。先生からも倒れるまで勉強しろ、と激励されました。

私の専攻したポストコロニアルスタディーズというコースは、植民地主義および帝国主義が現在の世界を形成する上でどのような影響を及ぼしているのかを、人種、国家、性別、および文化的アイデンティティを観点に入れて研究するコースです。この分野は比較的新しく、日本ではまだなじみがあまりありません。が、イギリスおよびアメリカ特に西部では研究が進んでおり、これからの社会学、歴史学および文学の分野で大きな役割を担って行く研究分野です。私は大学院のマスター

寮は、十三階建てのビルで六階で十三人の学生が住んでいました。国籍はさまざま、中国人、フランス人、モロッコ人、ポルトガル人、ウクライナ人、ドイツ人、ポーランド人、イタリヤ人、スペイン人、メキシコ人、トルコ人、ニカラグア人です。この寮での生活を通して、さまざまな国の文化や政治的な状況などを知ることができ、大変勉強になりました。またこの寮の仲間とはよく、みんなでご飯を作ったり、食べたり、集まっては一緒にテレビを見たり家族のような関係を築くことが出来まし。

寮は、十三階建てのビルで六階で十三人の学生が住んでいました。国籍はさまざま、中国人、フランス人、モロッコ人、ポルトガル人、ウクライナ人、ドイツ人、ポーランド人、イタリヤ人、スペイン人、メキシコ人、トルコ人、ニカラグア人です。この寮での生活を通して、さまざまな国の文化や政治的な状況などを知ることができ、大変勉強になりました。またこの寮の仲間とはよく、みんなでご飯を作ったり、食べたり、集まっては一緒にテレビを見たり家族のような関係を築くことが出来まし。ロータリーの奨学生は、さまざまな活動に、参加する機会があります。私は、チャリティのコンサートや、夕食会に参加させていただきました。この活動を通して大学の友達と交流することができまし。また私のイギリスでの親代わりになつていただいたホストファミリーのレイン・ゴリー夫妻には、日々の生活のサポートだけでなく、クリスマスやイースターなどにお宅に招待していただきたり、お嬢さんの結婚式に招いていただいたりして、私がイギリスの習慣を知ることができたように気を配っていただきました。また、四度ほどロータリークラブの例会で日本について話し、日本についてイギリスの人に知ってもらった機会を持つことができた。日本は余り知られていないようで、着物や、神社仏閣のようないくつかの分野で非常に進んでいる面と、イメージ

ジが混在していて不思議な国であるという印象を持たれてるようでした。この機会に、日本とイギリスのあいだの小さな掛け橋にしたいのではないかと思っています。

この一年間の留学で得たものは、学問的な知識や、学位だけではありません。ロータリーの活動や、日々の生活を通して知り合うことのできた人々との交流です。さまざまな背景を持つ人々との出会いを通して、見えないものを見、聞かれないものを聞くことが出来ました。この経験を将来に生かして行きたいと思っています。

像研究家がいた、徳島県に他に研究家がいなかった時代には徳島県の権威者であつた。この人と同一視して考へてしまふ。考古学というのには総合科学である。現代ではきちんとしてた教育を受けた人でないと成り立たない学問と思ふ。昭和六十二年はじめて渡印のあり、旧知の奈良、大安寺、河野清見大僧正に祇園精舎を発掘中の関西大学の網干善教先生を紹介され、発掘現場の見学が許された。二日掘つたところがお釈迦様御在世の遺跡だつた。我々一同遺跡に触つて大いに感激したものだつた。網干先生は「佛門にある君たちにか言えないが、私も浄土真宗寺院の住職をしている。真宗の根本経典は阿弥陀経だ。阿弥陀経はここ祇園精舎で成立したといわれる。私の集大成として仕事させてもらうのは男冥利につきる」とうち明けてくださった。先生も聞く耳を持つ者だ。誰かに言いたかつたのだらうが、私も一同ただただ感激したものだつた。こうした共感が得られるのが、考古学の発掘である。う。日本海一円の共通文化等々の研究が著についたところである。彼のねつ造するによつてしばらく前に進めまい。

このねつ造の原因の一つにマスコミがある。それは芸能リポーターのようなセンスで考古学者にせまることによる。考古学の発見というのには宝くじ並みの確率のほがが毎回何が出たかこないと承知しない。そこに疲れが出てこうした行為に走るのではあるまい

か。とはいつても本人が悪いことにはかわりない。もう一つの驚いきは高校教科書二十数種類のうち大半がこの遺跡のことをのせていることである。一つにそれほど定説かと疑問を感じる。一つにこんなことにはページを割くのなら近代のことをもつと大切にすべきだ。しかし、近代は諸説ある取り上げ方によつては教科書検定が危ない。となつて古代となるのではないかと、いうゲスな勘ぐりを持つ。

- 仁王門御尊像大修理 奉納者芳名 (敬称略)
- 瓦一式 鴨島町 岸田雄亮
 - 三十口 佐古寺内カツコ
 - 十口 鴨島町 伊月安一
 - 三十口 石井町 鍛冶勇
 - 三十口 多家良町 井内輝一
 - 三十口 大松町
 - 平山建設株式会社
 - 三十口 小松島市
 - (株)小松島自動車教習所
 - 三十口 小松島市 西野重春
 - 三十口 小松島市 川人英樹
 - 三十口 鳴門市 若井俊彦
 - 三十口 多家良町 田中務
 - 三十口 中昭和町 野本修
 - 三十口 吉野町 藤田良男
 - 三十口 北矢三 坂尾トヨ子
 - 三十口 北沖洲 黒部満喜子
 - 三十口 昭和町 久保新
 - 三十口 吉野本町 木村フミ
 - 三十口 藍住町 森下百合子
 - 三十口 鳴門市 宮崎タケ子
 - 三十口 藍住町 田中ヨネ子
 - 三十口 北矢三 坂尾千恵子
 - 三十口 鳴門市 大黒悟
 - 三十口 上八万町 元木覚
 - 三十口 兵庫県 坪井恵
 - 三十口 兵庫県 坪井富久美
- 御寄進ありがとうございました